

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 8 月 調査結果 - -

(平成 1 5 年 9 月 2 日)

調査期間：平成 1 5 年 8 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 2 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 1 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年8月調査結果のポイント】

業況D Iのマイナス幅は2カ月連続で縮小するも、景況は依然、停滞感が続く

8月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（47.6）よりマイナス幅が2.6ポイント縮小して45.0となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、卸売を除く4業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況D Iもマイナス幅が縮小した。しかし、製造業を中心に、一部に景気の先行きに期待との声があるものの、依然D I値の水準は低く、中小企業の足元では、景気の見通しの不透明さと不況の常態化から、引き続き停滞感が漂っている。景気の先行きについては、公共事業の縮小や、冷夏の影響、消費低迷と単価下落などを訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「新規受注高は、前年と比べると多少増加してきているが、採算は悪化したままで、資金繰りも苦しい」（建築工事）、「県の公共工事が大幅減等、公共事業受注が多い事業所は売上半減し、民間工事も大手に奪われており厳しい」（一般工事）、「地元市町村の合併を来年4月に控え、予算調整により市の工事が今後減少するという不安の声が多い」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「自動車、モバイル関連、パソコンが好調」（電気機器製造）、「大口・量産物は中国に取られているものの、短納期の小物・特殊物の受注は増加し、工場操業率も上がっている」（鉄素形材）との声の一方、「受注量は漸増してきているが、単価アップにはならず」（電気機器）、「業況は回復しつつあるが、企業によって度合いが異なり、先行きは注意が必要」（自動車、附属品）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「厳しい状況ではあるが、先行きに僅かながら明るい兆しが見えてきている」（衣服・日用品）との声の一方、「一部業種については安定した動きはあるが、他は全体的に低迷したまま推移しており、先行きも不透明」（各種商品）との声や、「依然として厳しい状況に変わりはないが、特に長雨と冷夏は状況をさらに悪くしている」（衣服、日用品）と、冷夏の影響を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「株価上昇を背景とした資産増効果による、消費回復に期待したい」（百貨店）との声があるものの、「休業日をなくし、営業時間を延長したため、売上高は増加したが、先行きの見通しは不透明」（百貨店）といった声や、「冷夏により夏物衣料品の売れ行きが特に悪い」（商店街）、「冷夏のため来街者が少なく、売上伸びず」（商店街）と、冷夏の影響を訴える声が多く寄せられている。

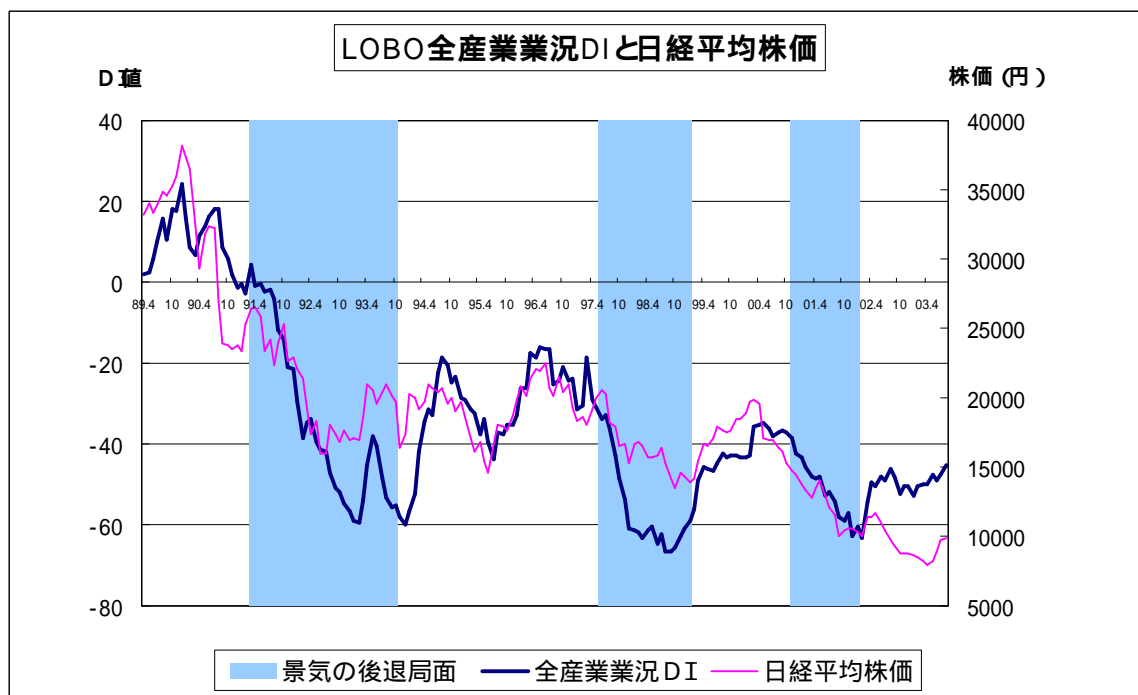
【サービス業】では、「夏休みの宿泊客はほぼ前年並みで、日帰り観光客は減少しているが、韓国はじめ海外からの観光客も若干見られた」（旅館）との声がある一方、「入場者は冷夏のせい少し好転したが、売上高は伸びず、低価格傾向」（スポーツ施設）、「宿泊客よりも日帰り入浴の客が多く、格安料金プランに人気がある」（旅館）といった、単価の下落を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は、卸売、小売で前月水準より拡大したが、他の 3 業種で縮小したため、全産業合計の採算 D I は 1 . 8 ポイント縮小して 4 0 . 7 となり、2 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は、小売で前月水準より拡大したが、他の 4 業種で縮小したため、全産業合計の採算 D I は 0 . 8 ポイント縮小して 4 1 . 1 となり、2 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう 3 カ月(9 月 ~ 1 1 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース)が 3 6 . 6 と、昨年同時期の先行き見通し(3 6 . 6)と比べて横ばいとなっている。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の縮小や、冷夏の影響、消費低迷と単価下落などに関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

8月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 47.6 ）よりマイナス幅が2.6ポイント縮小して 45.0 となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

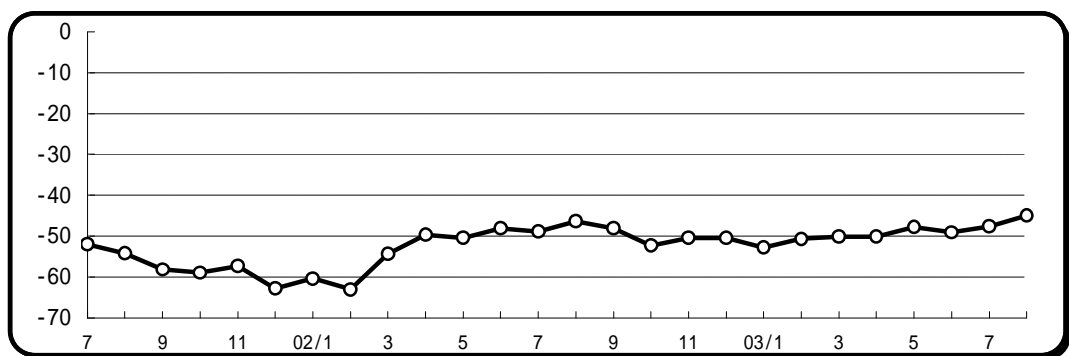
向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 36.6 と、昨年同時期の先行き見通し（ 36.6 ）と比べて横ばいとなっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	15年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	50.1	50.1	47.8	49.1	47.6	45.0	36.6 (36.6)
建設	64.8	64.7	63.0	61.7	59.0	57.2	51.6 (50.5)
製造	43.9	43.6	40.7	44.3	37.3	31.8	27.9 (33.8)
卸売	54.4	47.9	46.8	44.6	47.0	52.1	35.9 (32.3)
小売	49.2	48.6	46.4	46.4	50.0	48.2	37.4 (32.4)
サービス	46.2	50.0	47.4	51.4	48.9	44.4	35.1 (37.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 ()内は昨年8月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

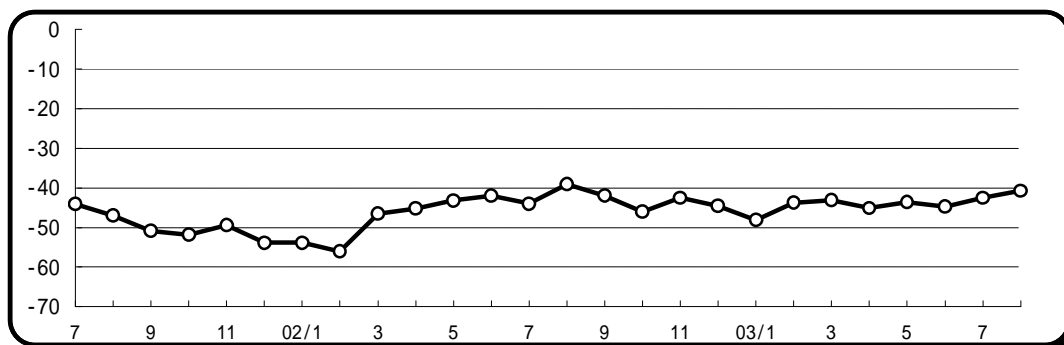
売上面では、D I 値のマイナス幅は、卸売、小売で前月水準より拡大したが、他の3業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は1.8ポイント縮小して40.7となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が30.6と、昨年同時期の先行き見通し(30.4)に比べて若干悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	43.1	45.1	43.6	44.7	42.5	40.7	30.6 (30.4)
建設	59.0	62.9	58.4	59.2	52.0	50.9	42.4 (41.5)
製造	33.3	34.4	33.3	36.8	31.0	24.3	20.6 (27.8)
卸売	45.9	46.7	47.7	39.2	45.2	46.7	24.6 (21.7)
小売	44.9	46.6	43.3	46.9	46.7	48.5	33.1 (28.5)
サービス	39.4	42.7	43.5	43.5	42.8	39.6	32.8 (31.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

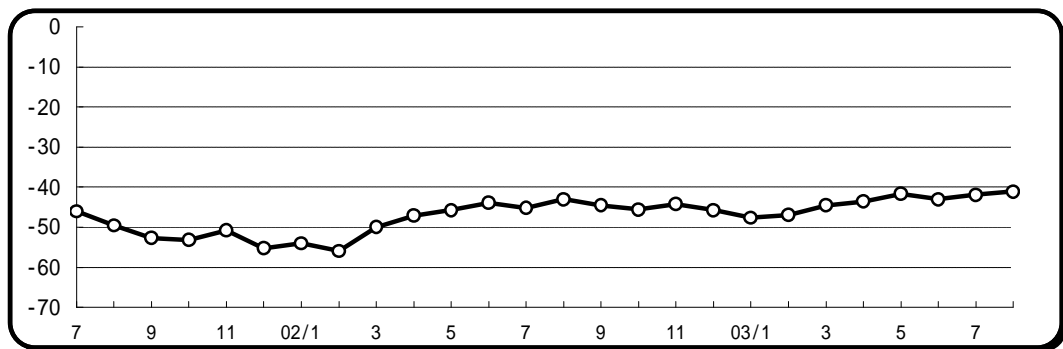
採算面では、D I 値のマイナス幅は、小売で前月水準より拡大したが、他の4業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は0.8ポイント縮小して41.1となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が31.1で、昨年同時期の先行き見通し(32.9)と比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	44.5	43.5	41.6	43.0	41.9	41.1	31.1 (32.9)
建設	61.9	58.3	60.1	62.2	60.1	56.2	45.6 (48.6)
製造	42.5	39.5	37.0	38.6	36.9	31.1	24.8 (32.3)
卸売	45.0	39.6	40.7	39.8	42.8	40.1	25.7 (28.0)
小売	38.5	41.3	36.2	36.6	34.8	40.3	27.4 (27.7)
サービス	42.2	42.2	41.3	44.4	43.8	43.2	35.1 (31.1)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	37.6	36.2	32.9	32.9	31.5	30.8	26.6 (29.5)
建設	55.2	50.9	46.8	48.9	46.6	44.0	45.7 (40.6)
製造	36.6	35.5	33.8	33.7	27.6	26.9	22.4 (31.1)
卸売	31.5	34.1	28.9	25.7	28.9	32.1	22.2 (21.2)
小売	31.2	27.9	26.2	26.2	26.5	27.8	20.5 (24.7)
サービス	34.9	36.8	30.8	30.4	31.3	27.9	27.0 (29.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売、小売を除く3業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも2カ月連続で悪化超感が若干弱まる。

【先行き見通しD I】建設、卸売を除く3業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも悪化超感が弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	7.4	5.5	4.3	3.6	3.2	4.4	5.5 (2.5)
建設	2.6	2.6	2.5	0.4	1.8	2.8	3.2 (0.7)
製造	18.5	16.5	17.7	15.4	14.7	13.3	10.4 (8.8)
卸売	11.9	1.2	5.8	0.0	1.2	3.6	7.8 (1.9)
小売	1.6	1.2	6.5	4.0	2.0	0.8	0.8 (2.1)
サービス	8.2	5.4	3.2	3.6	1.8	6.4	6.4 (4.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造を除く3業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも上昇超感が5カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ上昇超感が強まり、全産業合計でも上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	16.7	14.8	14.4	14.1	14.6	11.3	11.7 (14.4)
建設	36.4	33.2	34.3	34.3	33.5	28.3	25.2 (29.3)
製造	18.0	19.4	19.6	17.1	18.6	13.2	17.2 (19.2)
卸売	21.9	13.6	13.5	14.5	15.1	10.2	11.4 (13.9)
小売	6.6	5.1	3.6	5.2	6.1	5.5	4.2 (6.7)
サービス	12.2	9.6	8.9	8.2	7.7	4.8	5.2 (8.1)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】全業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも 2 カ月ぶりに過剰超感が弱まる。

【先行き見通し D I】全業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも過剰超感が弱まる見通し。

【平成15年8月の景気キーワード】

不況の常態化

依然として、業況の低迷を訴える声が多く寄せられている。「例年であれば繁忙期になってくるが、依然として需要不足・低価格入札による厳しい状況が続いている」(岩見沢・建築工事)「特に業況の好転はなく、構造的転換を図っていく必要がある」(遠軽・一般工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声や、「まとまったロットの注文は増えているが、単価は低く、低単価に対応できなければ受注量が増えない」(塩尻・電子部品製造)「材料高の製品安は依然続いており、製品値下げ機運は強い」(岐阜・プラスチック製造)「ポイントカードの導入により、客数は前年より増加したものの、客単価は減少した」(会津若松・百貨店)と、単価下落が止まらないとの声が寄せられている。また、「地域全体が沈み停滞した状態で、株価上昇などの好材料が地域に伝わってこない」(小野・その他卸)「景気は地方の実感としてはますます厳しいように感じられ、将来に希望を持てるような政策も少ない」(福島・商店街)「依然として荷動きは低調のまま推移しており、景況感の回復は感じられない」(豊橋・運輸)といったコメントが寄せられている。

冷夏

全国的に、記録的な冷夏に関するコメントが寄せられている。「冷夏の影響で原材料費の上昇が懸念される」(水戸・パン、菓子製造)「一部の野菜が高値となっており、果物は全体的に品質が悪く値下がりし、取引量も減少した」(倉敷・農畜産水産物卸)「夏物衣料の売上がきわめて悪い」(弘前・商店街)「薬局では、虫刺されスプレーや蚊取り線香のような季節物が振るわなかった」(伊那・商店街)「例年に比べてビールの売上が悪く、全体の売上也減少した」(藤枝・飲食料小売)「冷夏と大雨で観光客が激減し、地元消費も減少している」(下田・食堂、レストラン)といった声が寄せられている。また、一部からは「冷夏のため、秋物の動きが例年になく早い」(北九州・百貨店)といったコメントも寄せられている。

先行き期待感

今月は、製造業を中心に「受注単価は安いものの、繊維・工作・建設機械いずれも好調」(金沢・金属製品製造)「安価な輸入家具との競争の激化等、依然厳しい状況ではあるが、在庫の減少や、消費者ニーズに対応した商品の受注増により、若干回復傾向にある」(静岡・家具製造)「バス、乗用車、工作機械等の受注が増え、設備投資の回復を感じる」(各務原・輸送用機器製造)と、業況について明るい兆しを窺わせる声が寄せられた。他の業種からも、「個人住宅の建設需要があり、秋以降の業況は若干明るくなるのではないかと期待している」(帯広・建築工事)「株価上昇を背景とした資産増効果による、消費回復に期待したい」(京都・百貨店)「一部の企業で景気が良くなってきており、各事業所で様子を窺っている状況」(高岡・その他事業サービス)といった声が一部から寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
15年	6月	不況の常態化	競争激化・単価下落	先行き期待感
	7月	不況の常態化	天候不順	
	8月	不況の常態化	冷夏	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは5カ月連続、売上、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「新規受注高は、前年と比べると多少増加してきているが、採算は悪化したままで、資金繰りも苦しい」(建築工事)「県の公共工事が大幅減等、公共事業受注が多い事業所は売上半減し、民間工事も大手に奪われており厳しい」(一般工事)「新築、リフォームとも低調で、地元工務店でもできる範囲でチラシ、看板等の営業活動を行っているが効果があがらない」(建築工事)「官民とも、数少ない発注に対する競争が激しく、採算割れ受注になっている」(一般工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声が多く、「地元市町村の合併を来年4月に控え、予算調整により市の工事が今後減少するという不安の声が多い」(一般工事)とのコメントも寄せられている。
製 造	業況、売上、採算D Iとも2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「自動車、モバイル関連、パソコンが好調」(電気機器)「大口・量産物は中国に取られているものの、短納期の小物・特殊物の受注は増加し、工場操業率も上がっている」(鉄素形材)との声の一方、「受注量は漸増してきているが、単価アップにはならず」(電気機器)「アジア向け外需により高操業だが、国内向けは夏期電力不足対策による減産もあり、ほぼ横ばいで推移」(耐火物)「売上はやや増加しているが、この状態が続く保証はなく、先行きは見えないまま」(電子部品)「業況は回復しつつあるが、企業によって度合いが異なり、先行きは注意が必要」(自動車、附属品)といった声が寄せられている。
卸 売	業況、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「厳しい状況ではあるが、先行きに僅かながら明るい兆しが見えてきている」(衣服・日用品)との声の一方、「一部業種については安定した動きはあるが、他は全体的に低迷したまま推移しており、先行きも不透明」(各種商品)との声や、「依然として厳しい状況に変わりはないが、特に長雨と冷夏は状況をさらに悪くしている」(衣服、日用品)「冷夏により飲料関係の売上が減少」(各種商品)「冷夏、長雨は夏物衣料に悪影響大」(繊維品)といった、冷夏の影響を訴える声が寄せられている。
小 売	業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「株価上昇を背景とした資産増効果による、消費回復に期待したい」(百貨店)との声があるものの、「休業日をなくし、営業時間を延長したため、売上高は増加したが、先行きの見通しは不透明」(百貨店)「客数はほぼ前年並みに戻ったが、食品購入時に一品少ないというように客単価が低くなっている」(百貨店)といった声や、「冷夏により夏物衣料品の売れ行きが特に悪い」(商店街)「長雨と低温により農産物の品質が低下し、飲料・ビールも販売不振」(百貨店)「冷夏のため来街者が少なく、売上伸びず」(商店街)と、冷夏の影響を訴える声が多く寄せられている。
サービス	業況、売上、採算D Iとも、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「夏休みの宿泊客はほぼ前年並みで、日帰り観光客は減少しているが、韓国はじめ海外からの観光客も若干見られた」(旅館)「非常に厳しい環境ながらも、同業者の中で、前年より売上、利益とも伸ばしているところもあり、企業努力次第ではまだまだ可能性は残されていると実感している」(自動車整備)といった声の一方、「入場者は冷夏のせい少く好転したが、売上高は伸びず、低価格傾向」(スポーツ施設)との声や、「各企業の経費節減のため、接待等が控えられている」(すし店)「宿泊客よりも日帰り入浴の客が多く、格安料金プランに人気がある」(旅館)と、消費低迷と単価下落を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、北海道、東北、北陸信越、中国を除く5ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも縮小した。

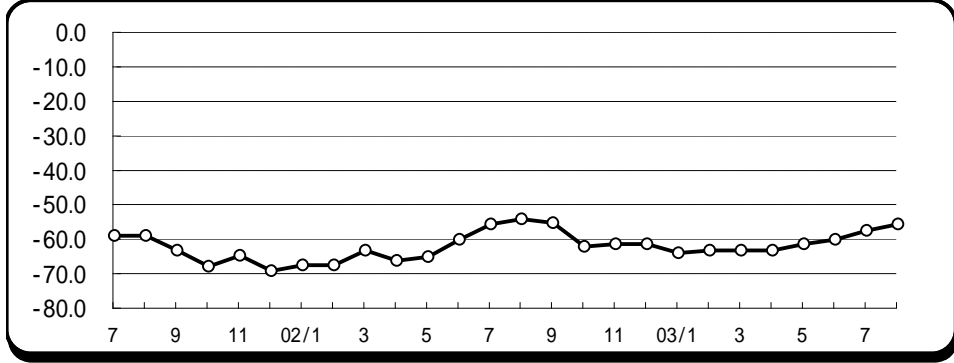
ブロック別の向こう3カ月(9月～11月)の業況の先行き見通しは、北陸信越、東海、近畿で昨年同時期の先行き見通しと比べ改善、関東で横ばい、残りの5ブロックで悪化、全ブロック合計では横ばいだった。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	15年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	50.1	50.1	47.8	49.1	47.6	45.0	36.6 (36.6)
北海道	46.2	44.3	47.0	41.5	39.8	40.7	37.4 (37.2)
東 北	54.7	54.7	46.8	46.8	46.7	48.8	43.5 (43.3)
北陸信越	49.2	47.3	44.3	45.0	42.1	44.0	29.1 (34.6)
関 東	54.7	50.9	47.4	48.9	50.0	47.2	31.6 (31.6)
東 海	43.6	45.4	50.3	42.8	46.7	41.9	37.2 (38.3)
近 畿	49.6	50.9	49.6	55.6	48.3	39.6	37.4 (42.2)
中 国	48.7	56.8	45.1	47.2	43.8	46.1	42.8 (37.0)
四 国	56.6	45.9	51.8	52.3	58.5	49.6	41.6 (40.5)
九 州	43.3	51.1	47.9	56.3	50.0	47.3	39.0 (32.2)

業況DI (前年同月比)の推移 (全国)

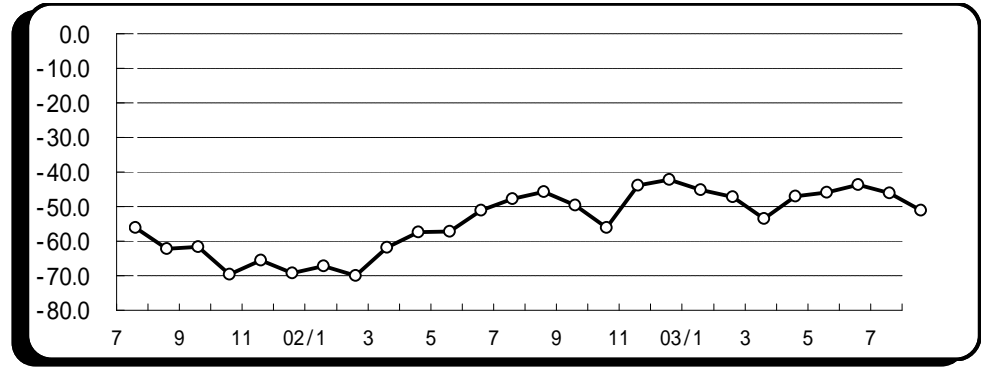
建設業



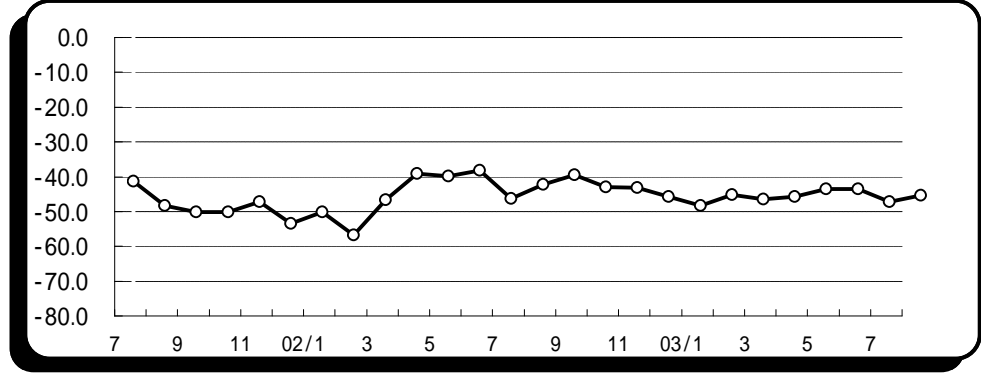
製造業



卸売業



小売業



サービス業

